

ディルムンの王墓を掘る

—バハレーン、アアリ古墳群西プロジェクト 2025—

安倍 雅史 東京文化財研究所保存計画研究室長
 末森 薫 国立民族学博物館准教授
 笠原 朋与 奈良文化財研究所アソシエイトフェロー
 長尾 琢磨 東京文化財研究所研究補佐員
 鈴木 崇司 駒澤大学研究科研究員

Archaeological Research on Dilmun Royal Mounds: the Bahrain Aali West Archaeological Project 2025

ABE, Masashi Head, Conservation Design Section, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
 SUEMORI, Kaoru Associate Professor, National Museum of Ethnology
 KASAHARA, Tomoyo Associate Fellow, Nara National Research Institute for Cultural Properties
 NAGAO, Takuma Research Assistant, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
 SUZUKI, Takashi Graduate School Researcher, Komazawa University

安倍
雅史／末森
薫
ほか

1. はじめに

ディルムンは、メソポタミアの文献史料に登場する周辺国の1つであり、前2千年紀前半にメソポタミアとオマーン半島、インダスを結ぶ海上交易を独占し繁栄した王国である。現在、バハレーンがディルムンの中心地に比定されている。

バハレーンのアアリ古墳群の北辺には(図1)、直径が50m、高さが10mを超える巨大古墳が十数基存在し、ディルムンの王の墓だと考えられている(図2)。そのため、これらの巨大古墳はアアリ王墓群と称されている。アアリ王墓群は、19世紀後半以来、探検家や考古学者によって繰り返し発掘が行われてきた。近年も、バハレーン隊がアアリ王墓群の8号墓を発掘し、「ヤグリ・イル」というディルムンの王名を刻んだ石製容器を見つけるなど、大発見が続いている。

さて、同じアアリ古墳群の西側(アアリ古墳群西)にも、6基の周壁を伴う大型古墳(R1号墓～R6号墓)が存在する(図3)。これらの古墳は、アアリ王墓群に比べ規模は劣るものの、近年、王墓の特徴の1つである周壁を有していることから、じつはアアリ王墓群に先行するディルムン最初期の王墓群ではないかと指摘され注目を集めている。さらに、これらの古墳は残存状態が良く、1基(R2)を除いては発掘調査が一切行われていない。そのため、ディルムンにおける王権の発達を研究するうえできわめて重要な古墳と考えられてい

る。

しかし、バハレーン文化古物局は、その重要さゆえに、アアリ古墳群西の発掘調査を認めることはなかった。しかし、私たちがバハレーンで根気強く10年にわたりワーディー・アッ=サイル古墳群の発掘を継続した結果、アアリ古墳群西の発掘許可を得ることがで

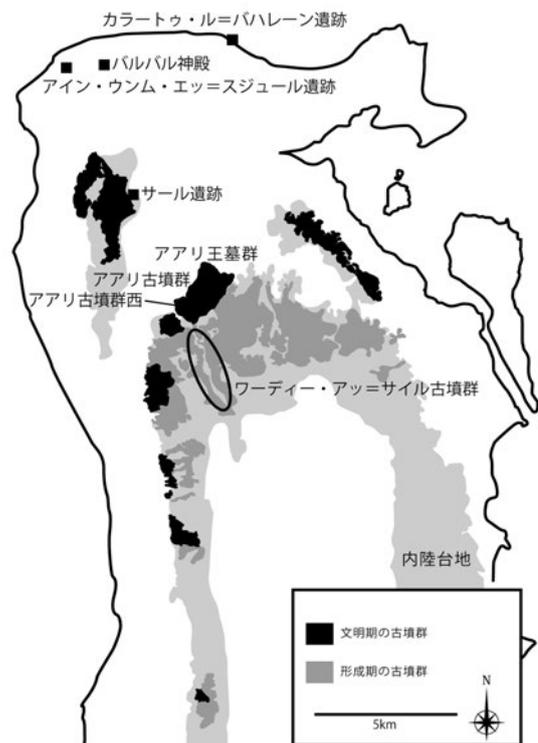


図1 バハレーンの古墳群

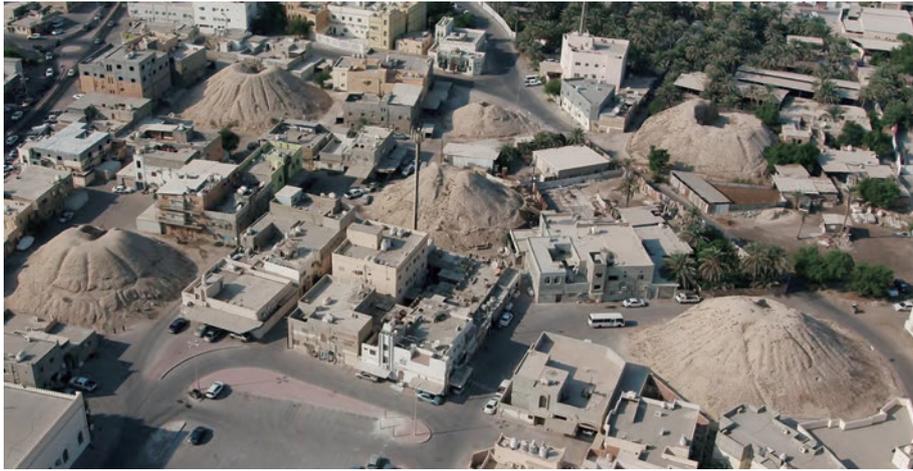


図2 アアリ王墓群

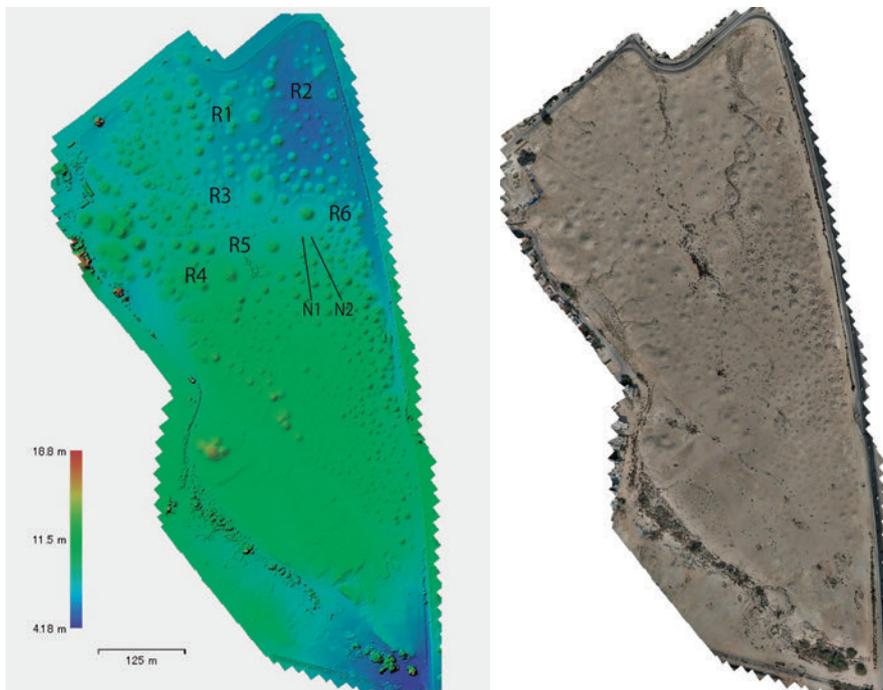


図3 アアリ古墳群西のDEM(左)とオルソ画像(右)

きた。

そのため、2024年度に新たに基盤研究(A)「ディルムン文明形成に関する考古学的研究」を取得し、「バハレーン・アアリ古墳群西考古学プロジェクト」を始動した。今後、5年をかけ、ディルムンの最初期の王墓と考えられている周壁付き古墳6基のうち、2基を発掘する予定である。

2. アアリ古墳群西の UAV 測量と 3 次元計測

バハレーンには、かつてディルムン文明期(前2050年～前1700年)の古墳群が10群存在した(図1)。そ

のなかでとくに有名なのが、アアリ古墳群である。現在、アアリ古墳群の中央を高速道路が横切っている。高速道路から西側の地域は、便宜的にアアリ古墳群西と呼ばれている。ここが私たちの新調査地であり、2025年1月、2月に第1次調査を実施した。

まずは、日本からドローンとRTK-GNSSを持ち込み、アアリ古墳群西全体のUAV測量を実施した。図3は、今回、作成したDigital Elevation Map(DEM)とオルソ画像である。とくにDEMを作成したことにより、古墳1つ1つの形状や大きさが明瞭となった。

今回のUAV測量の結果、1. アアリ古墳群西は、アアリ古墳群からワディで切り離された独立した古墳



図4 R4号墓の3次元計測の様子

群であること、2. アアリ古墳群西は、三角形状の微高地に形成された東西400m、南北800m、全体の大きさが16haほどの古墳群であること、3. 全部で600基ほどの古墳が分布していることが、明らかになった。

また、アアリ古墳群西にある6基の周壁付き古墳(R1号墓～R6号墓)は、古墳の直径、高さがそれぞれ20m～30m、2m～4m程度、周壁の直径が50m～60m程度と、アアリ王墓群のおよそ半分の大きさであることが判明した。現在、古墳群内の階層差などに関しては分析中である。

今後、周壁付き古墳のなかで、R4号墓とR5号墓の発掘を考えている。R4号墓は、盗掘坑が目立つが6基のうち最大の古墳であり、またR5号墓は古墳群の中央に立地しているため、この古墳群のなかで最も重要な古墳であると考えられるからである。そのため今回、日本からBLK360 G2を持ち込み、R4号墓とR5号墓の3次元計測も実施した(図4)。

3. R2号墓のクリーニングと試掘

R2号墓は、周壁付き古墳のなかで唯一発掘が行われた古墳である。現在、墳丘の一部が高速道路によって切られているが、1980年代に、バハレーン隊によって、この高速道路の建設に伴う緊急発掘調査が行われている。ただし、アラビア語の簡単な報告が出版されているだけで、発掘の詳細は不明である。また調査から30年近く経過しているため、石室内には灌木が生い茂り、周囲にはゴミが散乱している状況であった。そこで今回、クリーニングを行い、全体の写真撮影や3次元計測を行った。また、バハレーン隊が発掘したという記述が報告には見られなかったため、周壁を試掘することにした。

クリーニングの結果、R2号墓の石室がH形をしていることが明瞭となった(図5)。このH形の石室も周壁と同じように、ディルムンの王墓の特徴の1つと



図5 R2号墓の墳丘とH形の石室

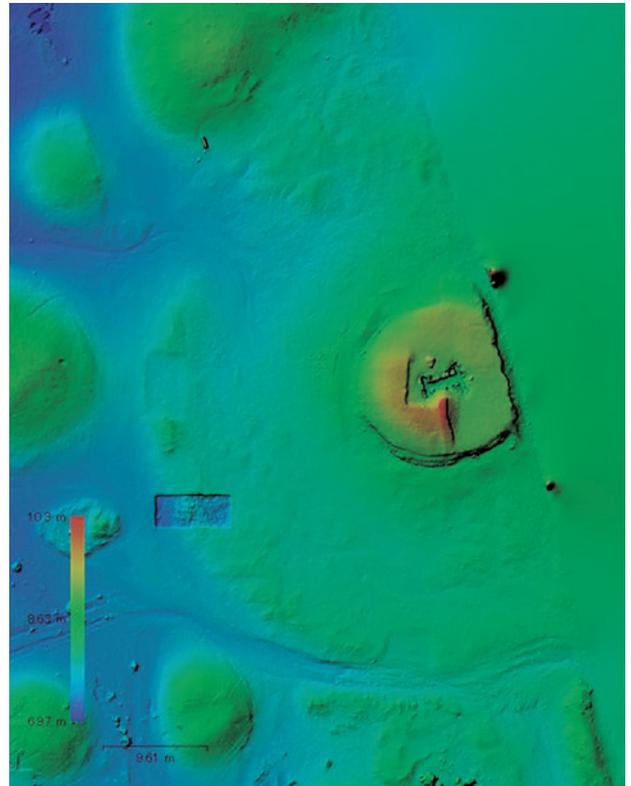


図6 R2号墓

考えられている。

また周壁にトレンチを入れた結果、1. 周壁は石を並べたものではなく岩盤を土手状に削りだしたものであること、2. 周壁の外側に溝が掘られている可能性があること、がわかってきた(図6)。来年度さらに精査する予定である。

4. N1号墓の発掘

また、今回、文明期の古墳を発掘するのが初めてということもあり、王墓を調査する前の練習として、中



図7 N1号墓(完掘後)

規模な古墳1基(N1号墓)と小規模な古墳1基(N2号墓)を選び発掘した。

N1号墓、N2号墓ともにR6号墓を取り巻く古墳である。N1号墓の発掘前の直径は10mほどで、墳丘には目立った盗掘坑が見られなかった。そのため、発掘を行った。

しかし、発掘の結果、古墳の石室や外壁が盗掘によって大きく壊されていることが判明した(図7)。古墳の石室からは遺物や人骨も含めなにも出土しなかった。

5. N2号墓の発掘

N2号墓は、発掘前の直径が7m、高さが40cmと非常に小型の古墳であった。墳丘の残りもよく、目立つ盗掘坑も見られなかったため、発掘を実施した。

発掘の結果、残念ながら、石室の東壁が壊され、ここから盗掘を受け、遺物の破片が石室外に散乱している状況であることがわかった。しかし、それでも石室の床面直上から、天然アスファルトが塗布された編籠や、37枚もの2枚貝、骨製錐、大量の土器片、ヒツジ・ヤギのものと思われる獣骨が出土した(図8)。2枚貝の内側には白色顔料が付着し、化粧具だと推定された。人骨は出土しなかったものの、N2号墓の大きさから未成人墓であると考えている。



図8 N2号墓(完掘後)

6. まとめ

アアリ古墳群西は、最古のディルムンの王墓が存在する古墳群として現在、注目されている。さらに、19世紀末以来、繰り返し発掘が行われてきたアアリ王墓群とは異なり、アアリ古墳群西の周壁付き古墳は、1基を除いて未発掘である。2026年1月、2月には、いよいよR5号墓の発掘調査に着手する予定である。

バハレーンで発掘調査を実施するにあたり、バハレーン文化古物局総裁のハリーファ・アハメド・アル・ハリーファ王子(H. H. Shaikh Khalifa Ahmed Al Khalifa)また考古局長のサルマン・アル・マハリ博士(Dr. Salman Al Mahari)から多大なご支援、ご協力を賜っている。この場を借り、感謝を申し上げたい。また本論考は、基盤研究(A)「ディルムン文明形成に関する考古学的研究」(研究代表者：安倍雅史)による成果の一部である。

■参考文献

- ・安倍雅史 2022『謎の海洋王国ディルムン メソポタミア文明を支えた交易国家の勃興と崩壊』中公選書。
- ・安倍雅史・津本英利・長谷川修一 2024『古代オリエントガイドブック』新泉社。